柳城

発行所
名古屋柳城短期大学
住所
名古屋市昭和区
明月町2—54
発行者
田浦武雄

新しい世紀を見つめて

理事長
学長　田浦武雄

柳城学院にとって、昨年は創立百周年の記念すべき年であり、本年は新しい百年へ第一歩を踏みだした年である。暦の上で、一九九九年は、二〇世紀の終わりの年であり、二〇世紀をふりかえる出版物が出され、放送や新聞で、二〇世紀の主な出来事が報道されている。あと数ケ月で、二一世紀を迎えるが、私たちは気持や心がまえの面で、新しい世紀を迎える用意ができているだろうか。毎日忙しくしていると、めさきのことに流されがちであるが、新しい世紀をみつめて、どうしたらよいかを、静かに考えてみる必要がある。

日本の現実をみると、近年の不況と就職難の時代に直面し、未来への夢をもつことが難しくなっている感もある。最近日本青少年研究所が、韓国、中国、アメリカ、日本の四か国の中学校・高校の生徒に対して行った「21世紀の夢に関する調査」（五月一三日発表）によると、日本の高校生は、その約八割が、「自分は将来に夢や希望をもっている」と考えているが、この数字は、韓国89%、中国90%、アメリカ95%に比べ、最も低い。中学生も同じ傾向を示している。また二一世紀は、「希望のある社会になる」については、35%の生徒が肯定しているが、韓国63%、中国89%、アメリカ64%に比べ、際だって低い。中学生も同じ傾向を示している。さらにこの調査によると、「人生の目標」について、日本の中・高校生は、「その日その日を楽しく暮らす」、「自分の趣味をエンジョイする」とする者が多く、豊かな消費生活の中で、将来よりも現在を、社会的な生活よりも、個人生活を重視する傾向が強い。

この調査が示した、日本の中・高校生のもつ価値観の問題点は、大学・短大の学生にとっても、適切に対処すべき課題であると思われる。また幼い子どもたちが、中・高校生になった時、同様の傾向を示すことがないように、保育の道を志す者にとって、大きな課題と言える。

少子化の状況は、大都市の都心に近い地域の幼稚園の経営に、大きな試練をもたらし、甚大な打撃を与えている。少子化の挑戦を受けながらも、名古屋柳城短大の場合、百年の伝統と、教職員の努力と学生の意欲とにより、就職率は高いが、新しい世紀に向って、気をゆるめることなく、自らの能力と資質を高める努力を積みかさねていく必要がある。

これまでの狭い経験からではあるが、新しい世紀のキーワードは、共生、優しさ、創造性等が考えられるが、それらを貫き、それらを支えるものは、信仰であり価値観である。特に、「愛をもって仕えよ」の精神こそ緊要であると思う。キーワードのそれぞれは、言うは易く、行うは難しの要素をもっている。

共生は、気のあった仲間の中のことであるよりも、異質なもの、考えの異なったものとの共生である必要がある。対立する民族間の共生は、最近のコソボ問題にも示されているように、容易なことではないが、人類が新しい世紀で生きのびてゆくには、忍耐づよさと寛容さを、人類の智恵として学ばなくてはならない。

第二のキーワードである優しさも、行動として表現できるまでには、なかなかの努力が必要である。特に困っている人、悩みをもっている人、病める人への優しさは、自己本位の生活に慣れた者にとっては容易なことではない。しかし優しさが、家族、学校、地域社会、国、世界へと、そのエトス（倫理的雰囲気）が拡がっていくことなしには、新しい未来はきり開くことはできない。

第三の創造性も、新しい世紀では不可欠である。二〇世紀では、ペニシリンを始めとする抗生物質の開発、コンピュータの発明など偉大な創造性の成果がもたらされたが、二一世紀では、ガンの特効薬を始め、人類の福祉をもたらすものが創造されることが期待される。創造とは必然の先見にあるとも言われている。創造とは後になってみると当たりまえのことを、他の人が気づかない時に気づくことでもある。そのためには目標に向っての不断の努力のつみかさねとひらめきを大事にしなくてはならない。これら三つのものを支え貫くものは信仰であり価値観である。新しい世紀をみつめて、「愛をもって仕えよ」の信仰の意味を深く学び実践に移したいと考える。

短大だより

1、2年生合同ゼミナール「ふれあいin伊良湖」を終えて

4月27、28日の両日、一泊二日で愛知県渥美町伊良湖岬にある伊良湖ガーデンホテルに於いて本学はじめての試みである1、2年生合同ゼミナール―ふれあいin伊良湖―が実施された。昨年度までは1年生はオリエンテーションゼミナール、2年生は幼児教育ゼミナールといった全く別々の企画で行われていた。この企画運営は学生生活委員会の主管で毎年行われるのであるが今回は全学合同企画なので昨年秋ぐらいから試行錯誤を繰り返しながら検討してきたのであった。問題点は全学400名を収容でき、学生たちが満足できる施設があるのか、全体会の会場確保は可能であるか、又、全員の二日間の流れはスムースにいけるのか、等々。施設については昨年度まで利用してきた伊良湖ガーデンホテルを全館貸切りというかたちで解決がついた。伊良湖ガーデンホテルは高級ホテルに属し、三河湾に面したロケーションは最高である。あとは2日間の進行がいかに混乱なくうまく運ぶか、という取組みであった。

又、ゼミナールの目的を記しておくと、1年生は入学間もない学生生活が充実し、お互いを知り合い、交流の輪を広げ、今後の学生生活への抱負や不安を語り合い、美しい自然に触れ心豊かな時を過ごす。2年生は残り1年間の学生生活をより充実したものにする。そのためには、今までの学生生活を振り返り目的を共有する仲間と将来の夢を語り合い、絆をもっと深め、魅力ある社会人となるために努力する。そして1、2年生共通の目的としては、学年、クラスを超えて交流し友情を深めあう。以上のようにかなり盛り沢山の目的を掲げている。又、今回の合同ゼミナールには短大全教員と6名の事務職員の方々の参加があったのは大変喜ばしいことであった。

4月27日当日は素晴らしい天気であった。しかし、この2日間をすべて昇華できるのかという不安を抱きながら8台のバスに分乗し出発した。まず、1、2年生の共通目的としての交流は入学時に行っていた新入生歓迎会をこの合同ゼミナールに組み込み今までとは違った新入生歓迎交流会を行った。この交流会は渥美町体育館で1日目、13：00から2時間の予定でかなり盛り上がって行われた。短大教職員をも巻き込み、クラス対抗出しもの、短大教職員のトーンチャイムのおもしろ演奏会等、大学生活では常に見られない先輩、後輩、クラスメート、教職員の意外なところを味わうことができ、ずいぶん楽しませてくれた。交流会最後の出しものとして秋の柳城祭への団結を意識して色とりどりの風船飛ばしで締めくくった。そのきれいさは学生各々の目に深く焼き付いたことであろう。そして16：00から1時間30分の予定で1、2年生混合のグループ討議をガーデンホテルで24のグループに分かれ、

それぞれの司会者の裁量によって行われた。このグループ討議は主に1年生の質問に2年生が答える方式で行われた様である。主な内容として大学生活の送り方、勉強の方法、実習や試験への不安、アルバイト、学校の周囲の情報等々。1年生にとっては先輩の偉大さを、2年生にとっては2年生になった自覚を認識でき共によい結果であったと思われた。待ちに待った夕食では1年生は豪華版のブュフェスタイルであった。思い思いの料理を好きなだけ食べた。窓の外には伊勢湾に沈む素晴らしい夕日をバックにクラスメート達と幸せな時を持てた喜びも味わった。2年生は少々おめかしをしてテーブルマナーを緊張ぎみに楽しんだ。これも将来良き社会人になった時の為に企画されたものである。夜と早朝の自由時間ではホテルの前の海岸で自然と戯れた学生も多々いたとのことであった。2日目は1、2年生別々の会場にてマナー講座を受講した。講師として1年生は伊藤圭子さん、2年生は松井直美さん〔両氏共に名古屋トータルアカデミー所属〕を招いた。内容は「女性として、社会人として、又、人間としてのマナーを磨く」、ということで学生たちも熱心に受講、実習をしていた。その後学年ごとにグループ討議の報告を中心にした全体会を行った。かなりいい意見が出ていたようだが1時間の予定であったので少々時間が足らず残念であった。そして昼食をとり、帰路についた。帰りは伊良湖岬から知多半島の師崎までフェリーを利用したのだが、当日は結構波が高く学生たちは随分フェリーの揺れと波しぶきを楽しんでいたようであった。これも又思い出の一こまになったことであろう。この2日間体調を崩した学生もほとんど出ず、元気に帰って来れたことに感謝した。この合同ゼミナールについてのアンケートを実施したのだが、ほとんどの学生は「満足」という結果であった。又、レポート「1、2年生合同ゼミナールに参加して」を読んでも「最初このゼミナールに対して大きな不安があったがゼミナールが進行していくうちに不安もとれ1、2年生が1本の流れとなり収穫の多い時間を過ごすことができ大いに満足であった」という感想がほとんどであった。来年度の1、2年生合同ゼミナールもさらに充実したものにしたいという思いである。今回の企画を大きな成功に導いてくれた初塚助教授と教務課員の藤田さん、それぞれのゼミナール委員の皆さんに感謝している。

学生生活委員長　野々垣　文成

教育実習報告

実習委員会教育実習担当
奥　美佐子

2年生が5月24日～6月5日の2週間に渡る教育実習Ⅱを終えて、短大のキャンパスへ戻ってきた。6月8日に行われた事後指導時の対話からは、今日の課題を明日の保育に生かせるように努力した姿勢や、子どもたちの小さな声に励まされて1日実習を終えた実感が伝わり、2週間の集中実習は継続的に子どもとかかわりを持つことができて、概ね良い実習であったと思われる。

98年度入学生から教育実習は新しい形態で実施されている。実習Ⅰを1年次後期に、実習Ⅱを2年次前期に置き、実習Ⅰ、Ⅱともに集中実習を中心とした実習形態であるが、日常の環境で子どもたちと遊ぶことが少ない学生に、少しでも幼児と関わる機会を持たせる目的で、1年前期から幼稚園に行き、段階的に保育現場を経験出来るようにした。しかも、幼稚園2種免許取得を希望するすべての学生がキリスト教主義の幼稚園で保育を経験するとともに、短大附属幼稚園での実習を経験することができるように配慮した。

まず、1年前期の教育実習法において附属幼稚園の園児と出会う機会をつくる。次に夏期休暇期間中に学生1人につき2日間、観察を目的に幼稚園に実習に出る。附属幼稚園並びにキリスト教主義の幼稚園に協力を仰ぎ、主として夏期保育期間に見学・観察実習を経験し、保育者を初めとする保育環境の把握と幼児理解の手がかりを掴む。98年度は附属3か園と協力園4か園、99年度は附属3か園と協力園7か園で実習することになる。実習オリエンテーションをこれに平行して進めながら、各園への事前訪問を経て1年次後期の実習Ⅰへ継続する。さらに事後指導、2年次実習のオリエンテーション、事前訪問を経て2年次前期の実習Ⅱへ続き、事後指導を経て教育実習が終了する。98年度生の実習Ⅰにおける集中実習期間は、愛知県保育実習連絡協議会へ実習園申請をする必要が生じる関係から、この年は1週間のみの集中で、残りの日数は各園の行事参加をこれに当てた。99年度生から実習Ⅰは2週間が保障され、これまでより実習園が増え約60か園以上で実習が行われる。

問もなく、99年度入学した1年生180人が夏期保育期間を利用した観察実習に出る。人やものとの新たな出会いを求めて保育者への一歩を踏み出してほしいと期待している。

ラウンジ

―学生の新しいいこいの場―

新しい「学生ラウンジ」はタイトルどおり「学生の新しいいこいの場」となっているのか…？学生の使用状況、大学への要望等を学生会役員に聞いてみました。以下、回答の一部を紹介します。

- 学生が一番多く入るのは昼休みで、お弁当を広げる学生で賑わっている。
- ソファー、テレビ、流し台があり、家庭的な雰囲気が良い。
- 授業の空き時間や放課後にも、自習をしたり学生同士で種々打合せをするのに使われている。
- 一年生と二年生の交流の場となっている。
- 昼食後、テーブルが汚れているので、使用したテーブルを自分たちで拭けるように、台拭きを用意してほしい。
- 壁掛け時計がほしい（現在室内に時計がないので）。
- 学生が使用する掲示板があると良い。等々。

このとおり、細かな要望はありますが、学生ラウンジの評判は概ね良好です。また、回答の中には柳城生らしさを感じさせるものがあり、本学学生の特徴を再認識しました。

教務課　藤田

歴史資料室コーナー

昨年は百周年。メモリアルな年に柳城カレッジカラーの記念集を二種刊行し、創立者ヤング先生の建学精神を目で見る形で具体的に表現する事が出来ました。

これは、柳城をいつも心に掛けていて下さる、学院関係者ご一同のご支援の賜物と感謝申し上げます。

また、刊行を機として同窓生の方々や、カナダ聖公会本部を訪問させて頂き、新たな信頼関係が築かれた事を喜んでいます。

昨秋から歴史資料室は、ひとまわり大きくなり壁面にパネル写真「柳城の歩み」を展示しています。

今年六月、歴史資料委員会は、学生のキャンパスライフを豊かにする試みとして資料室に於て「復刻世界の絵本展示会」を開催し、遠く百年前、ヴィクトリア時代に作られた絵本を主に展示しました。

カナダのトロント公共図書館所蔵オズボーン氏の英国古絵本。ドイツ国立図書館所蔵ヨーロッパ大陸古絵本。オックスフォード大学図書館所蔵のマザーグーズ等の復刻版。（本学図書館所蔵）です。

どれもこれも素朴な魅力の挿絵と見事な彩色、デザイン構成です。

児童文学のコレクションとしてもその精妙な絵と高度な芸術性は子供達が、これらの絵本を目で見指で触れたとき、大人になるのも悪くはないねとにっこり、にんまり感動すること間違いなしの逸品です。学生からも「絵本を見て、こんなに癒されるなんて」と感激の一言を頂きました。左上の写真。

開催中の十五日間に二百三十名の学生が訪れ、小さな歓声が室内に満ちあふれました。

今後も機会を捕え、フレーベルモンテッソーリーに関する教育教材、遊具、玩具、保育作品資料の特別展示などを企画、開催して行きたいと思っています。（広瀬記）

附属幼稚園だより

百周年を迎える柳城幼稚園

昨年短大の百周年を盛大にお祝いし、創立者ヤング先生のお働きを偲びました。その最初の幼稚園が名古屋でも初めてである、お城に程近い白壁町に開かれた本園であり、その為に保母養成が始められたようです。当時は人力車、今はそれに代わって自家用車による通園の風景ですが、子、孫、曾孫など4世代のつながりの中に、地域の人に愛され、支えられてきた「百年」を感じると同時に、幾多の試練を乗り越えてキリストの心を心として先人の築いて来られた伝統を大切に次代に引き継いでいきたいと願っております。

「環境による保育」の最も重要なものが「教師」であることを思うとき先生のかもしだす雰囲気が園のカラーになっていく事に着目します。宇宙船では、乗員全員が仲良く協力できなければ、死につながる事態もあるとか、同じように、職員が、キリスト教保育に携わり、子どもに伝えていきたいもの、それは感性に頼り、雰囲気に負う所が、大きいように思います。

最後になりましたが、十一月三日に百周年の感謝礼拝とささやかな会食の集いを持ちますので、皆様どうぞ柳城幼稚園にお越し下さい。

園長　小松　伯子

神の宣教のみ業

三好丘聖マーガレット幼稚園新築工事始まる

三好丘聖マーガレット幼稚園
開設準備室長
司祭　パウロ　立川　浩三

「あなたがたに平和があるように。父がわたしをお遣わしになったように、わたしもあなたがたを遣わす。」（ヨハネ二〇・二一）

短大附属のもうひとつの幼稚園が誕生しようとしています。愛知県のほぼ中央、名古屋市の東、豊田市の西隣、西加茂郡三好町の新興住宅地域の真ん中です。緑に囲まれた、のどかな田園風景の中に計画的に建てられた高層マンションや一戸建ての分譲住宅。全体として空気は澄み、美しい町並みが見えます。町の人口はおよそ四万五千人。毎月三百人～四百人増えつつあります。若いカップルの多い地域で幼児教育の施設が足りません。町から本学にお話があり、本学ではこれを受けて新しい幼稚園の開設に踏み切りました。

早速「新設幼稚園構想委員会」を発足させ、新しい幼稚園の在り方を追求しつつ、それに相応しい園舎の設計に取りかかりました。園名も、柳城の創始者マーガレット・ヤレグ女史に因み、「聖マーガレット」をいただきました。町の計画に予定されていた住宅都市整備公団の土地約千坪を取得することもでき、建築業者も決まり、去る五月二十八日、中部教区主教、本学の理事でもあるフランシス森紀旦師父により起工式が行われました。園舎は来年の一月末には完成し、救主降生二千年四月開園の予定です。幼稚園の規模は、七クラス百八十人。必要な教師が与えられるよう祈っています。

新しい幼稚園では、やはりキリスト教の精神を中心として、心の豊かな、愛に満ちた人と人との交わりを大切にし、個性を尊重し、それぞれの賜物を活かし、地域の皆さんと共に、自然や環境との触れ合いの中で共に生きる喜びと感謝をもって、たくましく人生を歩むことができるようになることを目指したいと、開設準備室では、関わりのある多くの方々と話し合っています。

三好町の真っ只中で、主は既に「宣教のみ業」を始めておられます。わたしたちは、その宣教のみ業に一生懸命参与させていただくのみです。

感謝！　ハレルヤ！

校舎建築募金協賛者ご芳名

（98年12月16日から99年7月1日まで）　（敬称略・順不同）

鈴木裕子・田中和子・小池妙子・東京三菱銀行・武藤照子・大澤弘毅・森井松代・武智美保・名古屋聖マルコ教会・篠田美登利・幸野貴久枝・山下輝枝・畠　裕子・相澤　晃・高嶺　昌・中野早苗・名古屋聖ヨハネ教会・橋爪久美子・伊藤まゆみ・久志本直子・田浦武雄・平松千鶴代・西原京吾・平野政子・菊地伸二

募金総計555件
¥19、903、000

この100周年記念募金は当初より五年間で五千万円を目標として掲げ、皆様方のご協力をお願いして参りました。世の中全体が不景気なときではありますが既にたくさんの方々からご協力いただけましたことは誠に感謝でございます。

しかし目標達成率では四〇％に充たない状況です。短大では、平成十二年四月の教育職員免許法改正により、新に情報機器操作の教室を設けなければならないことになりました。施設の整備はまだまだ続く様です。ご多用の処とは存じますが更にご協力をお願いできましたら大変幸せです。

事務局長

お世話になった三人の先生の　み霊の平安をお祈りします

西原新一先生を偲ぶ

監事　神山　四郎

去年三月十五日小雨降る未明の急報以来、病室での抹油式・ご遺体移送・納棺式・通夜式を経て、十七日の葬送式へと、先生のお傍近くで諸事お手伝いが与えられ、六十年余に亘るご高誼と恩顧に、幾分なりともお報い出来たことは、悲しみを超え、主に在っての交わりの深さを沁々と感じさせられました。殊に通夜式・葬送式の参列は絶えることなくお別れを惜しまれ、先生のご遺徳にその重さを改めて感じ入りました。先生は人生の大部分を幼児教育と福祉に懸けられ、創始者の精神を旨とし、実践と祈りを以て、今日の柳城へと大きく発展に貢献されました。

このひたむきな意志を堅められたのは、郷里の島根県の中学時代の療養休学中のこと、農繁期の農家の幼児に保育の必要性を痛感され、自主的に実践された美談があります。当然にして隣町の教会牧師との出会いが生れ、熱心な青年キリスト者へと入信され、その後神学院へと進まれました。誠に宜なるかなと言えましょう。

主の平安を

磯谷桂治先生の思い出

旧職員　高田　澄子

昭和24年非常勤講師として、愛知学芸大学現在の愛知教育大学より、美術の先生として磯谷先生をお迎えしました。先生が始めて、いらした時は空爆で焼け残っていた付属御器所幼稚園の一部で狭い部屋に10人位の学生でした。昭和25年に現在地に本校舎が建設されて、昭和28年には、柳城女子短期大学として認可を受けることが出来ました。磯谷先生始め、多くの教育大の先生のご指導、ご協力のお陰げでした。

以前柳城は非常勤の先生には、講義を終えられると応接間にて紅茶を出し休息して頂いておりました。磯谷先生は何時も隣の事務所にこられ、ホーキンス学長、坂東先生と楽しく話を弾ませていらっしゃいました。又運動会、クリスマス、卒業式には、何時も出席して下さいました。又ホーキンス学長は、学生とのクリスマスとは別に非常勤の先生方を、ご家族一緒に招待されていました。磯谷先生は、可愛いい男のお子2人を連れて参加され、学長、坂東先生はとても楽しみにしていらっしゃいました。磯谷先生の授業は、特に30年代卒業の人達は憧れの的で、美術クラブは先生のご指導を受けスケッチ旅行に出掛けたり楽しい時を過していたようです。

先生は教育大を名誉教授として、定年退職され柳城に専任教授としてお迎えすることが出来ました。先生はとても柳城を愛していて下さいました。「僕は若い時から柳城に来て、坂東先生に色々なことを教えられ今の自分が……」と柳城の話になると何時も口になさいました。

先生は、平成5年5月大変名誉な勲三等旭日中綬章を叙勲されました。其の後柳城でも、名誉教授の称号が贈られ、平成6年3月退職なさいました。背が高く、70才過ぎてもピンクの背広がよくお似合になりました。

本当に永い間柳城のためにお働き下さいまして、有難とうございました。

近藤八重子先生を偲んで

1999年、この年が明けた時、こんなに多くの先生方とのお別れが待っているとは思いもよらぬ事でした。

近藤先生そして西原先生のもとで幼稚園の仕事をさせて頂いた私にとって、お二人はご高齢でも、いつまでも元気でいていただけるという思いが強く、お別れは突然で、とても悲しいことでした。

西原先生に続き、近藤先生の訃報を伺った時、この思いとは反対に、一瞬先生の笑顔が目に浮びました。姪の長根先生に「近藤は早く天国へ、神様のみもとへ行きたいと言っている。」とお聞きしていたからかもしれません。

今頃は西原先生、磯谷先生と共に、御国にいらっしゃると思うと、悲しみも和らぎます。

近藤先生は、生涯を柳城にあって、幼児教育に捧げられ、子供達と保育者を育てて下さいました。

私より永く深いお交わりをされた方々が沢山いらっしゃいますのに、誠に僭越なのですが、私の思い出を書かせて頂きます。

当時、新任だった私は、何から何まで先生に教えていただきました。特に先生の聖話は楽しい中にも神様を子供達に伝えたいという強いメッセージを感じるもので、中でも、ゴリアテを倒す少年ダビデのお話を、身振り手振りを交えながら、体を子供達の目線に屈めてお話になるお姿を、印象深く覚えています。

年月が過ぎ、私が子供達に聖話をしている折、ふと先生のお声が聞えたように感じた時教えていただいた事が忘れず、無意識のうちにしっかりと身についていると気が付きました。

私同様、先生のお教えや思い出は数えきれない程の柳城学院、附属幼稚園の卒業生の方々やお交わりになられた方々の心の中に大切に残されてゆくことと思います。

永い間、柳城の為にお働き下さいました西原新一先生、近藤八重子先生、磯谷桂治先生、有難うございました。

ご冥福を心からお祈り申し上げます。

つたない文をお許し下さい。

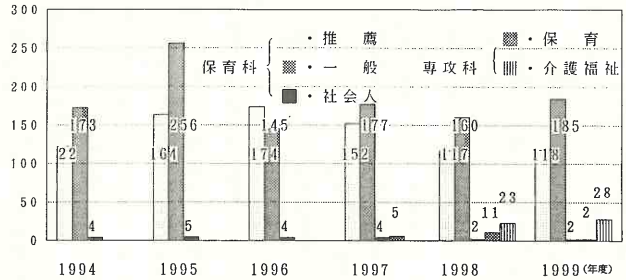
同窓会役員

昭和44年度卒業生

平松　千鶴代

入試状況

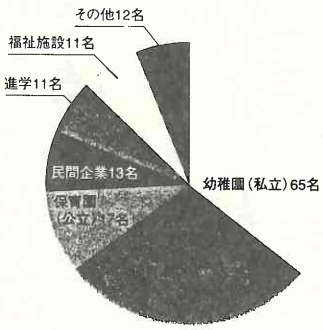
過去五年間の入学志願者数



就職状況

本年度も就職率はほぼ100%です。不況でたいへんな就職難の中、本校学生はよくがんばったと思います。就職先からも、柳城の卒業生は明るくまじめでとても良いという評価をたくさんいただいています。

100年の伝統の上に、今の就職状況があることを実感しています。



二〇〇〇年度入学試験日程

試験区分		願書受付期間	試験日	合格発表日
保育科	推薦入試	1999年11月1日(月)〜1999年11月9日(火)	1999年11月13日(土)又は11月14日(日)	1999年11月18日(木)
保育科	一般入試	2000年1月11日(火)〜2000年1月20日(木)	2000年2月1日(火)及び2月2日(水)	2000年2月8日(火)
専攻科	保育専攻	2000年1月21日(金)〜1月28日(金)	2000年2月5日(土)	2000年2月10日(木)
専攻科	介護福祉専攻	2000年1月21日(金)〜1月28日(金)	2000年2月5日(土)	2000年2月10日(木)

平成10年度決算について

法人事務局

去る5月28日開催された評議員会及び理事会に於いて、平成10年度の決算が承認されました。その概要は別掲の決算書の通りですが主なポイントは次のとおりです。

平成10年度は創立100周年という記念すべき時を迎え、様々な事業が行われました。4月には、高齢化社会を見すえて、専攻科介護福祉専攻1年課程を開設、又柳城が新しい世紀に一歩を踏み出すための環境整備を図って学生ラウンジクラブ室等を設けた四号館の建設、その為の建設資金募金も成果をあげることができました。

この他池端町のテニスコート用地を売却、その資金で西加茂郡三好町に幼稚園を開設するため、土地を購入しました。100年の歴史と伝統を次の世紀につなぐべく努力しています。

消費収支計算書

平成10年4月1日から平成11年3月31日まで　（単位：千円）

消費支出の部		消費収入の部	
人件費	399,250	学生生徒納付金	503,436
教育研究経費	182,574	手数料	11,308
管理経費	47,197	寄付金	32,338
借入金等利息	14,760	補助金	113,769
資産処分差額	381,815	資産運用収入	2,203
		資産売却差額	263
		事業収入	9,265
		雑収入	12,994
		帰属収入合計	685,576
		基本金組入額	△ 230,616
		当年度消費支出超過額	570,636
支出の部合計	1,025,596	収入の部合計	1,025,596
前年度繰越消費支出超過	526,377		
翌年度繰越消費支出超過	1,097,013		

教職員人事異動

（1999年6月1日現在）

《採　用》

法　人　名古屋柳城短期大学附属三好丘聖マーガレット幼稚園設置準備室
室　長　立川　浩三
（1999年4月1日付）

主　任　南川たか子
（1999年4月1日付）

短大事務局
総務課主任　村瀬　均
（1999年6月1日付）

附属柳城幼稚園
園　長　小松　伯子
（1999年1月1日付）

附属豊田幼稚園
教　諭　川添　麻紀
（1999年4月1日付）

《異　動》

附属柳城幼稚園園長より法人（歴史資料室）勤務
佐藤智代美
（1998年12月31日付）

《退　職》

法　人　佐藤智代美
（1999年3月31日付）

短　大　特任教授　西頭三雄児
（1999年3月31日付）

短大事務局
総務課長　水谷健一郎
（1999年3月31日付）

附属豊田幼稚園
教　諭　大津　里美
（1999年3月31日付）